

京都市立常磐野小学校教育方針

学校教育目標

～次世代を生き抜くために～
しなやかに考え、温かい心をもち
人間力の豊かな子を育成する

＜設定の理由＞

現代社会は、めまぐるしく変化する時代である上に、今までに予期しえなかつたことが起こっている。10年先の社会では、今では信じられないようなことが多数起こっていることが予想される。およそ10年前に起きた東北大震災を始め、本年でいえばコロナウィルスの大流行に代表されるように、今後、どのようなことが起きても、それに対応できる力を培っていかなければならない。

また、10年後には今ある職業のおよそ半数以上がなくなり、その分、新たな職業が存在すると予想される。子どもたちは、自分たちの未来をどのように想像する事ができるであろうか。未来に対する思いというより、様々に変化する社会にいかに柔軟に対応できるかが大きな課題である。

そこで、しなやかな考えが不可欠になってくる。「しなやか」とは、柔軟性があり、弾力性があり、動きがなめらかでやわらかいという意味がある。様々な角度から物が見られ、考えられ、解決することができる人に育ってほしい。

本校は、人権を尊重していかなければならないという強い思いをもち続けてきた歴史がある。人一倍に、温かい心、人を愛する心をもつことが必要である。LIKEではなくて LOVEである。相手の気持ちが考えられる力ということも次世代に求められる力であり、本校児童には、「温かい心」を育んでいかなければならない。そのためには、自分を大切にすることによって、人も大切にできると考える。

しなやかな考え方ができるための取組、それを支える学力の向上、温かい心を育むことによって、人間力が高まっていくものと考える。

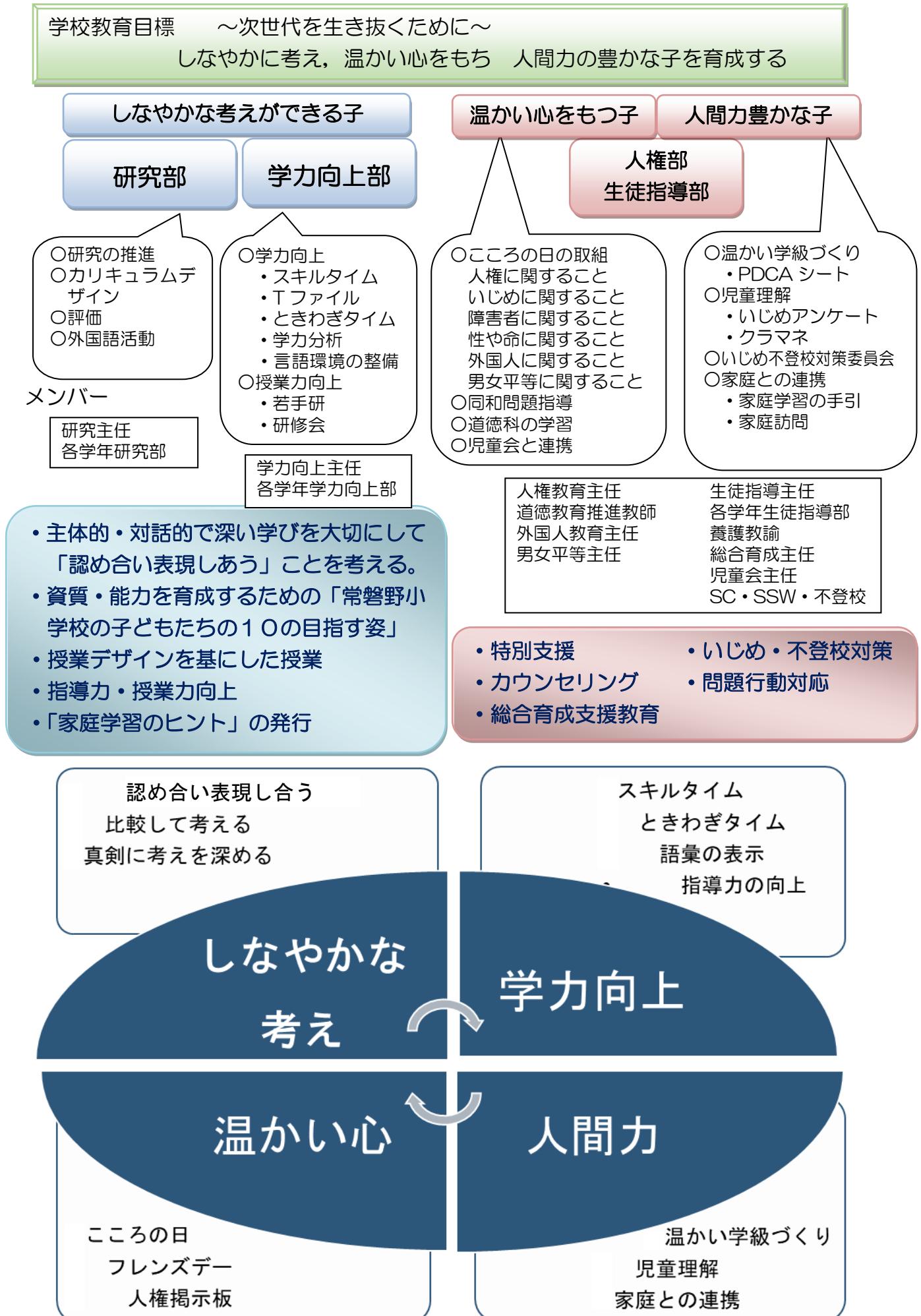
そして、一人の人間として、次世代を力強く生き抜いてほしい。

そういう人を育てるために、常磐野小学校では、様々な教育活動の中で実践をしていきたい。

【めざす子ども像】ときわのの子

- と 友だちも自分も大切にする子
- き きまりを守る子
- わ わかった、できたを目指す子
- の のびのびと元気な子

組織図



取組の重点

学習

○学年体制の強化

交換授業をするなど、学年体制で児童を育てる。

- ・柔軟な授業形態
- ・交換授業
- ・理科や外国語などの専科制 など

○体験活動の充実

学習したことを実際の体験と関連することで、確かな学びを実現させるために、校外学習の時期と内容を考えた活動の充実を図る。

○資質・能力の育成

資質・能力の育成のための「常磐野小学校の子どもたちの10の目指す姿」を設定し、実現をめざしていく。

基礎学力の定着

○スキルタイム—繰り返し反復練習（漢字・計算プリントの作成）

○Tファイル 一話合い、意見を話す話型、ポイント提示、感想語彙表示 各教科の学習の語彙・まとめの話型

○ときわぎタイム—感動したこと、学んだこと、考えたことのスピーチ、伝え合い

○テストの分析—児童の学習状況を分析し、改善策を見出し、授業に活かす。

○授業力の向上—授業デザインを作成し、指導に活かす。

○家庭学習 一「家庭学習のヒント」の発行

温かい心の育成

○教職員の人権に対する認識を深め、人権意識を高める取組

○児童の人権意識を高める取組

こころの日—毎月のテーマに沿って、関連教科や道徳科・特別活動を通して学習する。

○保護者の人権に対する理解と認識を深め、人権意識を高める取組

参観や懇談を通して行う。

人間力の育成

○温かい集団作り

あいさつ運動—誰に対しても、気持ちのこもったあいさつと正しい言葉遣い

PDCA シート—温かい学級づくりをするための計画と検証
(クラスマネージメントシートの活用)

○徹底した児童理解

早期発見・早期対応—いじめアンケートを活用して、早期に発見し、委員会で早期に対応する。

○家庭との連携

家庭学習のヒント—学力向上部との連携

行事

※コロナウィルス感染拡大予防対策のため、今年度の行事に関しては実施時期・実施方法・実施の有無については、変更等を行う可能性有。

学習したことを保護者や地域の方々に参観してもらう。

＝運動会（9月）＝

体育の時間で学習したことを発表する。

＝学習発表会（11月）＝

音楽の時間や国語の時間、総合的な学習の時間で学習したことを発表する。

＝作品展（2月）＝

図工や書写で取り組んできた作品を展示する。（書写、立体・造形、版画・絵画）

保護者・地域

<信頼づくり>

- ・家庭訪問などを通じて、家庭との連絡を密にする。
- ・懇談会だけでなく、学習や生活の課題を常に伝える。

<学校への参画を推進する。>

- ・学校の教育活動の理解を図るために、参観や懇談会の参加を働きかける。
- ・家庭教育学級などの機会を設け、子育て支援と家庭力向上を行う。

<地域との連携>

- ・地域とともに行う学校教育
- ・ゲストティーチャーとして招き、体験活動を行う。